

児童・家庭福祉

専門教育科目／2単位／T授業

担当教員 松原 由美

■使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）
「最新・社会福祉士養成講座第3巻 児童・家庭福祉」中央法規出版

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

本講座は、テキストを中心に進めます。

子どもが健やかに、幸福に育つために、ソーシャルワークの専門職として子どもの発達を認識したうえで、子どもの声を聴き代弁すること、子どもと家庭の両方を的確にアセスメントすること、さらに他機関との連携において特有の事情や専門知識が必要不可欠となります。

そのため、子どもの権利や子ども家庭福祉の概念、そして子どもの基本的事項を確認します。また、児童福祉の歴史を振り返りながら制度政策やそれが実際に運用される今日の社会状況を確認し、子ども家庭福祉の実践領域において知るべき内容や動向を学び、子どもの発達と環境への意識を向けます。また、事例を用いてソーシャルワークの基本的姿勢を理解しましょう。

添削課題は、テキストを熟読して取り組んでください。また、子ども関係の情報を新聞やテレビ等で得て、課題の自由記載の問題に活用してください。

到達目標

- 1.子どもの権利、家庭福祉の理念、原則と養護などの基本的事項を説明できる。
- 2.子どもの家庭福祉ニーズを考える際には、歴史を理解し、子どもの発達過程に焦点を当てて、総合的に問題を考える態度を身につける。
- 3.制度政策やそれが実際に運用される今日の社会情勢について理解し、子ども福祉の様々な実践領域において知っておくべき内容や動向が理解できる。
- 4.子ども家庭福祉におけるソーシャルワークの意義を提示し、実践への適応を意識して論じることができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 子ども家庭福祉とは何か。

第1節 子どもの権利

・子どもの福祉保障の根底に人権思想があること、児童の権利に関する条約の意義について理解する。

第2節 子どもの生命と発達

・子どもの生命固有性を尊重する社会づくりや権利や社会保障の基盤としての姓名・国籍の保障を理解する。

・子どもの発達と環境への意識を向ける。

第3節 子どもの家庭・地域

・子どもの権利保障における親や保護者も重要性について理解する。

・子どもの福祉保障において保護者支援が不可欠であることを理解する。

・エコロジカルな視点から現象を捉え、「マイクロ・メゾ・エクソ・マクロ」に子どもの抱える問題を分類することができる。

第4節 子ども家庭福祉とは

- ・児童福祉法の総則と子どもの権利の関係について理解する。
- ・子ども福祉の在り方について理解する。
- ・子ども家庭ソーシャルワークの全体像を理解する。

第2章 子ども家庭福祉の歴史

第1節 ・児童福祉の明治時代から昭和初期までの歴史を理解する。

- ・子どもの権利擁護の変革について理解する。
- ・戦争に向かっただの変質、その後破綻を経て新生した児童福祉の意味を学ぶ。

第2節 事前・恩恵から権利保障へ

- ・戦後から平成までの子どもの権利擁護の歴史を理解する。
- ・戦後から平成までの、子どもの立場や生活について理解する。

第3節 子どもの権利擁護の変革

- ・平成以降の子ども家庭福祉の変革について学ぶ。
- ・現代の「子ども・子育て支援制度」に至るまでの経緯を理解する。
- ・現代社会の子どもと家庭の現状と必要な施策の改善点を考察する。

第3章 子ども家庭を取り巻く現代社会

第1節 子ども家庭を取り巻く社会環境

- ・子ども家族、地域社会の変容を歴史的な流れの中で理解する。
- ・近年の急激な社会の変容と子育て環境の変化について理解する。

第2節 現代社会における課題と子育て・子育てへの影響

- ・現代社会における環境の変化とその変化が子育て環境や子どもたちの生活に与えている影響について学ぶ。
- ・子ども福祉と子育てに支援が必要な状況であることを理解する。

第4章 子ども家庭福祉の支援の基盤

第1節 子ども家庭福祉の法体系

児童福祉六法と関連法規について理解する。

第2節 子ども家庭福祉の実施体制

- ・子ども家庭福祉行政の機構について理解する。
- ・国、都道府県、市町村の役割と業務を理解する。
- ・児童相談所等の子ども家庭福祉の実施機関の目的や業務を理解する。

第3節 子ども家庭福祉に関わる関係機関・施設と利用方式

- ・児童福祉施設やその他の関係機関の目的および役割などについて理解する。
- ・児童福祉施設の利用方式について理解する。

第4節 子ども家庭福祉の財源と費用負担

- ・子ども家庭福祉の財政について、資金の概要と財源の種類を学ぶ。
- ・施策の財源がどのようにまかなわれているかを理解する。

第5節 子ども家庭福祉の人材と専門職

- ・子ども家庭福祉実践を行う機関や施設について理解する。
- ・実践現場における専門職の役割と資格について理解する。

第6節 子ども家庭福祉の計画的推進

- ・事業計画に基づきサービスを整備していく考え方を理解する。
- ・地域共生社会づくりと民間組織、住民との共同連携の考え方を理解する。

第5章 子どもの福祉課題と支援

第1節 子ども・子育て支援

- ・わが国の子ども子育て支援施策の概要を理解する。
- ・地域子育て支援、児童健全育成の概要を理解する。

第2節 母子保健

- ・母子保健の目的や対象、様々な事業の考え方などを概観できる。
- ・母子保健と医療や福祉との連携、協働を理解できる。
- ・児童福祉の立場で母子保健との情報共有の意義を理解できる。

第3節 保育

- ・保育に関する制度の流れを理解する。
- ・保育制度の最近の動向や制度設計を理解する。
- ・現在の保育制度の課題や展望について整理。

第4節 要保護児童などの在宅支援

- ・在宅支援の対象児童等とその抱えている課題について理解する。
- ・在宅支援における他機関連携と支援のポイントについて理解する。
- ・地域づくりにおけるソーシャルワーカーの役割について理解する。

第5節 児童虐待にかかわる支援

- ・児童虐待の定義と種別を学ぶ。
- ・児童虐待の現状を学ぶ。
- ・児童虐待への対応の在り方を学ぶ

第6節 社会的養護

- ・社会的養護の動向を把握する。
- ・家庭養護と施設養護の仕組みを理解する。
- ・社会的養護における権利擁護について理解する。

第7節 ひとり親家庭への支援

- ・ひとり親家庭の生活状況を把握する。
- ・ひとり親家庭に対する支援策とその方向性について学ぶ。
- ・ひとり親家庭への社会福祉の課題について考える。

第6章 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践

第1節 子ども家庭福祉の支援の端緒と調査

- ・「介入」と「支援」の意味を理解する。
- ・「調査」の基本を確認する。
- ・「面接」にかかわる基本的事項を理解する。

第2節 子ども福祉におけるアセスメント

- ・アセスメントの基本と子ども家庭福祉において特に重視すべき観点を知る。
- ・失敗例を踏まえて、実践において留意すべき観点を知る。
- ・判断の間違い、当事者の訴えに巻き込まれること、進行管理の失敗や見落としを避けるためのスーパービジョンの必要性

第3節 子ども家庭福祉における支援の展開過程と連携

- ・課題解決に必要な「目標の共有」の意義について確認する。
- ・複数の期間が協働して支援を展開するうえで留意点を理解する
- ・支援状況の進行管理についての留意点を理解する。

第4節 子ども・子育て支援に関わる実践

- ・親子を孤立させない方法や抱えやすい困難を理解する。
- ・共感的で当事者の強みを引きだす対応を学ぶ。

第5節 母子保健や医療との共同による実践

- ・課題を指摘するだけでは、当事者を混乱させることを理解する。
- ・子どもの健康や発達、養育状況などを踏まえて支援することの重要性を理解する。
- ・情報提供や紹介で終わらず、母子保健や医療との連携や協働を実質的に進めることを理解する。

第6節 保育における実践

- ・保育におけるソーシャルワークの実践や実践方法を学ぶ。

第7節 児童虐待に関わる実践 その1

- ・当事者や関係者から持ち込まれる協議などの事例を理解する。
- ・子どもの利益を図ることと保護者を支援することの関係を理解する。
- ・関係者と連携するときにお生じやすい葛藤への対処について考える。

第8節 児童虐待に関わる実践 その2

- ・児童虐待への対応があ、実際にどのように行われるかを学ぶ。
- ・児童虐待を受けた子どもの回復と家庭支援、多期間連携の実際を学ぶ。

第9節 社会的養護に関わる実践

- ・子どもが社会的養護に至るプロセスを理解する。
- ・社会的養護における子どもの理解、ケア、家族への支援の概要を知る。
- ・家族再統合の可能性とその支援を理解する。

第10節 ひとり親家庭への支援にかかわる実践

- ・ひとり親家庭が抱えがちな生活上の困難やよせられる相談の実際を理解する。
- ・当事者の意思や意向、アセスメントを踏まえた支援の重要性を理解する。
- ・ひとり親家庭の支援は、包括的で多様であることやリスクを認識する。

第11節 女性福祉に関わる実践

- ・DVのある家庭の母子の心理を理解し、支援の外力を捉える。
- ・性被害にあった女性に対する支援について知る。

第12節 教育との協働にかかわる実践

- ・子どもにとって学校はどんなところであるかについて理解する。
- ・学校で課題として意識されやすい事例からソーシャルワーカーの役割を知る。
- ・学校等の教育機関と福祉との協働の在り方について考える。

第13節 若者の自立支援に関わる実践

- ・若者の自立支援は職業訓練、就労支援のみではないことを理解する。
- ・若者の支援は、本人のこれまでのライフステージを理解することが重要であることを理解する。
- ・若者の抱える困難や課題とその背景を考え、若者が社会とかかわる重要性を理解する。

第14節 障害児に関わる実践

- ・障害児支援の実際を理解する。
- ・障害児支援は、子どもを取り巻く家庭支援者への支援も重要であることを理解する。
- ・支援を進める上で重要な視点を理解する。

第15節 当事者参画とアドボカシーに関わる実践

- ・社会養護の子どもたちのアドボカシーの重要性について考える。